

令和元年度第1回県央地区保健医療福祉推進会議ワーキンググループ結果概要

1 日時

令和元年10月3日(木) 18時00分から20時00分

2 場所

厚木保健福祉事務所大和センター 講堂

3 参加者

(1) 医師会 4医師会 4名

(2) 病院協会 2病院協会 2名

(3) 医療機関 28病院 41名

・別紙1参照

4 主な意見等

(→:事務局)

(1) 2025年に向けた対応方針について

・説明者:事務局(厚木保健福祉事務所)

・プラン等を変更する場合は、その都度、対応方針等を更新して提出する必要があること、更新内容を推進会議で情報共有する必要があることを各病院に依頼。

(2) 対応方針を更新する医療機関による説明等

・説明者:湘陽かしわ台病院 高原院長

・別紙2参照

・意見等なし

(3) 病床整備について

・意見等なし

(4) 令和元年度の地域医療構想の進め方について

・意見等なし

(5) 神奈川県地域医療構想の県央構想区域における取組み等

ア 県央地域の各歯科医師会における「在宅医療を担う人材の確保・育成」の取組状況等

イ 県央地域の各薬剤師会における「在宅医療を担う人材の確保・育成」の取組状況等

・意見等なし

ウ 高齢者施設調査

・高齢者施設の居住者が医療機関にかかる際、同行する施設職員が、いわゆる基本情報も把握しておらず、既往歴を全く把握していない施設があり、非常に困ったケースが時々ある。例えば、入所者の基本情報に関するデータベースを保有しているかどうかを、調べられるようであれば調べていただきたい。

→事務局(厚木保健福祉事務所)

11月14日に開催する第2回推進会議において、「高齢者救急」を検討項目として取り上げたいと考えている。例えば厚木市では救急安心カードを設けて、基本情

報を予め記載したものを、施設や在宅の高齢者に持っていただくといった取り組みをしていると伺っている。まず、各市町村がどのような取り組みを行っているかに関して検討項目としたいと考えている。

- ・高齢者救急の対応が、地域医療構想の対応において重要な内容であり、最終的にどういふ看取りになるのか、病院に搬送するのか、施設が看取りに対応しているのか、高齢者の医療を考える上で避けて通れない。これについては、引き続き考えていきたい。

(4) 県央地域の現状について

ア 平成30年度病床機能報告結果（速報値）等について

○「病床が全て稼働していない病棟を有する医療機関」として、県央二次保健医療圏では座間総合病院及び厚木市立病院の2病院があり、両病院から具体的な対応や病院の考えを聞いた。

- ・説明者：座間総合病院 渡病院長
- ・HCU8床休棟中、医師、看護師不足
- ・現在、募集、大学の医局回り等を行っている。なかなか兆しが見えてこない状況ではあるが、充足次第開棟したい。

- ・説明者：厚木市立病院 内田事業局長
- ・HCU12床休棟中、看護師不足
- ・現在、来年度の採用に向け採用試験を実施し、順次、採用の予定が決まってきている。来年度からは開棟できる見込み。しかし、4月には新規採用の職員もいるため、いきなり病棟配置は難しいことから、遅くとも来年度の秋にはフル稼働ということで、来年度の開棟に向け準備をしている。

イ 定量的基準について

- ・意見等なし

(5) 報告事項

ア 厚生労働省から公立・公的医療機関に対する具体的対応方針の再検証要請について

- ・稼働率は、全く考慮されていないのか。

→事務局（医療課）

稼働率はリストに掲載はあるが、分析の対象にはなっていない。

- ・ベッド数は、稼働率を考慮して、データが示されているものか。

→事務局（医療課）

ベッド数は病床機能報告の数値である。

- ・県は施設基準等を踏まえて、看護師の数等のデータが分かるのではないのか。そういったデータを踏まえたものではないのか。

→事務局（医療課）

そういったデータは踏まえていない。今回要請されたことは、再編統合そのものを求めるものではない。2025年に向けた対応方針が、全国的に見て現状追認にな

っているのではないかと指摘を受け、厚生労働省は業を煮やしており、個別に見て指定することは難しいため、一律の基準で一定の線引きをして再検証を要請したもの。

要請された再検証に対して、どのように対応するかということでは、一律の基準だけではなく、個別の医療機関の役割を含めて、地域ごとに検討を深めていく必要があると認識している。今後、そうした検討を進めたい。

- ・スケジュールとしては3月までにということだが、無理があるように思えるが。

→事務局（医療課）

今回の要請は、あくまでも再検証で、その結果2025プランを見直すこともあるし、見直さないとの結論もあると考えている。その場合は、その理由を整理して国に説明する必要がある。それに向けた議論を3月までに行う。再編を伴う場合は9月までと期限が切られている。

- ・民間の医療機関に対しても再検証要請があると聞いている。県には情報が入っているか。

→事務局（医療課）

再検証を行うのであれば、民間も必要との議論あったと聞いている。厚生労働省は、民間病院について明言していないが、今後、民間に対する再検証要請がないとは言い切れない。

- ・突然、リストを出されると、どのように議論したらよいか分からない。最終的には資料にも記載されているが、地域の健康、いのちを守ることが重要であるので、国の要請を見ると再編成ありきのように聞こえるが、あまりにも唐突すぎて、期限も3月までと性急すぎる。

地域の議論は調整会議に委ね、県や国はそれ以上の指導は行わずに、関係ない、地域で結論を出しなさいというスタンスなのか。

→事務局（医療課）

これは、調整会議にいわゆる丸投げということではなくて、行政としても当然考えていくべきことと考えている。ただ、地域医療構想を協議する中で、協議の場として調整会議がある。

今回は、一つのデータをもとに基準をつくったという議論のきっかけで、病床機能の分化・連携を進めていきたいという国の思いがあると考えている。

それに対して行政としてできること、例えば基金の活用などを県として考えていきたい。地域の実情を反映して議論をすることについては、推進会議の場をもって議論を深め、それをこれからの施策の体系に反映したい。

- ・個人的な感想だが、北海道夕張では、大きな病院は、唯一の日赤病院と隣町の国民健康保険の病院だけで、この地域の大きな病院は全てリストに出てしまっている。その中でダウンサイジングしていくと、適切な医療が受けられるのかと考えると、人口が減る中で本当に地域に人がいなくなってしまう。

国家が国の末梢に至るまで、何を考えて、将来に繋げていこうとしているのかと思ってしまう。この話は、そこから考えないと、最終的にそのようなことに行きつくと考えている。それに対して、日本医師会は、こういう方針で、ということを行わなければならないと思っている。

・山下会長からご発言があったが、このリストは唐突感がある。2025 プランを皆さんの病院が出して、民間病院も同じことが起きるのではないかと想定される。

県に聞きたいのは、このような再検証の要請があることは、県として、ある程度見えていたことか。これまで、趨勢はあったのか。あったのであれば、今後の民間病院の再検証要請の見通しについて、伺いたい。

→事務局（医療課）

平成 28 年度に地域医療構想が全都道府県で策定され、それを踏まえ、国は 2 年間で集中的な検討を進める期間と位置付けてきた。

その 2 年間で終わったところで、国の地域医療構想のワーキンググループで評価した際、公立公的病院は減るのではなく、逆に増えるという状況が見られた。2025 プランの検討が現状追認になっているという議論がなされている。

そうした中、国は地域の議論を推進したいという中で、リストを公表するという手段に出た。これまでの背景を踏まえると、そのように理解している。

・情報がないから答えになっておらず、それしか答えようがないということか。

この定点というのは、いつの時点か。

→事務局（医療課）

これは 2017 年度、平成 29 年度の病床機能報告のデータをもとに分析しているので、その後の事情変更等は一切加味されていない。

イ 地域医療介護総合確保基金事業について

・今年度分は、いつごろ決まるのか。

→事務局（医療課）

例年 9 月頃に内示があるが、遅れている。内示の予定時期は示されていない。内示があれば、着手できることになっている。

ウ 「神奈川県地域医療介護連携ネットワーク構築ガイドライン」について

・これはガイドラインだから、必ず実施しなければならないということではないということでしょうか。

→事務局（医療課）

そのとおり。

・あまりにもお金がかかり過ぎる。実施することは良いことかもしれないが、金額に見合わない。ランニングコストの負担を医療機関等に強いており、現実問題として、県は実施できると思っているのか。

→事務局（医療課）

難しいご質問で、率直にお答えしにくいところはあるが、ハードルは低いものではないと思っている。ランニングコストに公的な負担ができれば、ハードルが低くなるが、基金は消費税を財源にしており、国の整理では、イニシャルコストとランニングコストを峻別している。

事例としたサルビアねっとは、情報の内容も充実しており、費用負担にも影響している。参加機関の多寡によっても、個々の負担が変わってくる。あくまで一例と捉えてほしい。

イニシャルコストは基金として出してよいとされているので、一定程度の負担は軽減される。また、国との交渉になるが、イニシャルコストの対象になる部分を、例えばシステムの仕様の検討にあたっての基金活用など、なるべく立ち上がりの苦しいところに基金が使えるよう、検討していきたい。

- ・このシステムは、受益者は負担なく使っているが、医療機関が相当の負担を強いられる。住民の方にとって、非常に良いシステムであることはよく分かる。しかし、安易に手を出すと後でひどい目に遭ってしまうという印象が、現時点ではあるので、よく考えながら進んだ方がよいと考える。

エ 医師確保計画、外来医療計画について

- ・昔は適正配置委員会というものがあり、資料を見ると昔のことを思い浮かべる。今後、偏在是正は、強制力を伴う罰則を適用するような厳しい状況が現実のものとなるのか。あるいは努力目標になるのか。
→事務局（医療課）
恐らく計画に違反したからと言って、何かペナルティを科すようなことは想定していないと認識している。
- ・医師の偏在を直した方がよいという話だが、冒頭に看護師が足りなくて病棟が開けないという話があったが、医師だけ偏在を直しても病棟は開けられない。本来、看護師等を含めた医療従事者の偏在を考えるとところに落ち着かないと何も解決しないと思うが、いかがか。
→事務局（医療課）
おっしゃる通りと思う。
- ・県央地区は医師が少ないが、今後、医師が少ないところに対するワンステップとして、県として考えていることがあれば教えてほしい。
→事務局（医療課）
確認させていただきたい。

(6) その他

- ・意見、質問等なし

別紙 1

令和元年度第1回県央地区保健医療福祉推進会議ワーキンググループ 出席者名簿【実績】

○医療機関

令和元年10月3日(木)

医療機関名	役職名	氏名	役職名	氏名	備考
厚木佐藤病院					欠席
相州病院	事務部長	きゆうざき しんいち 久崎 進一			
仁厚会病院					欠席
神奈川県リハビリテーション病院	病院長	すぎやま はじめ 杉山 肇	事務部長	こまつ かずのり 小松 一則	
湘南厚木病院	院長	くろき のりみつ 黒木 則光	事務長	たいら しゅういち 平良 修一	
近藤病院	院長	こんどう つとむ 近藤 勉	事務長	ひらばやし ひろやす 平林 広康	
東名厚木病院	病院長	やました いわお 山下 巖 (推進会議委員)	事務長	くきた こうじ 久木田 光司	山下病院長は推進会議委員
愛光病院	事務長	わたなべ みちたろう 渡邊 美知太郎			
厚木市立病院	病院事業局長	うちだ あきら 内田 晃			
亀田森の里病院	院長	たかぎ あつし 高木 敦司	事務長	おがた じゅんいち 尾形 淳一	
神奈川中央病院	事務長	すがはら すすむ 菅原 進			
AOI七沢リハビリテーション病院	病院長	いそたに えいじ 磯谷 栄二	事務長	こぐれ けいよう 小暮 桂葉	
愛川北部病院	事務局長	すずき みのる 鈴木 実			
清川遠寿病院	事務長	にわ のりゆき 丹羽 規之			
湘陽かしわ台病院	院長	たかはら かずゆき 高原 和享 (推進会議委員)	事務長	すずき ひろし 鈴木 浩	高原院長は推進会議委員
海老名総合病院	病院長	はっとり とまたか 服部 智任 (推進会議委員)	エリア管理部 管理部長	ふじもと ようじ 藤本 洋志	服部病院長は推進会議委員
オアシス湘南病院			事務長	いしだ しげる 石田 茂	
さがみ野中央病院	総務 事務責任者	あべ たいすけ 阿部 泰輔			
座間厚生病院					欠席
相模台病院	事務部・部長	もちまる こういち 持丸 幸一			
相武台病院	事務長	あそう あきひろ 麻生 明宏			
座間総合病院	病院長	わたり じゅん 渡 潤	管理部・部長	いけだ ひろし 池田 弘	
南大和病院				さいとう 斉藤	代理出席
みどり野リハビリテーション病院	院長	おおやま おさむ 大山 治	事務長	まえだ まこと 前田 誠	
中央林間病院	院長	きやま さとし 木山 智	事務部長	おのぎ まさふみ 小野木 雅史	
大和病院	理事長・院長	いしい かずひこ 石井 一彦			
桜ヶ丘中央病院			地域連携課・課長	おおしま ゆうき 大島 裕樹	代理出席
愛育病院					欠席
大和成和病院	病院長	くらた あつし 倉田 篤	総務課	やまだ こういちろう 山田 浩一郎	
綾瀬厚生病院	院長	とくなが ただし 徳永 唯志	事務責任者	みなみ ひろお 南 浩男	
大和徳洲会病院	病院長	かわもと たつなり 川本 龍成	事務長	やました なおこ 山下 尚子	
大和市立病院	副院長	くらなみ まさる 藏並 勝	事務局長	おおのき くにひこ 大軒 邦彦	

○県央地区保健医療福祉推進会議 委員

団体名	役職名	氏名	備考
厚木医師会	会長	まじま よりこ 馬嶋 順子	
大和市医師会	会長	こばやし よねゆき 小林 米幸	
海老名市医師会	会長	たかはし ゆういちろう 高橋 裕一郎	
座間綾瀬医師会	会長	いそづみ まさる 五十棲 優	
厚木病院協会	会長	やました いわお 山下 巖	東名厚木病院 病院長
大和・高座病院協会	会長	たかはら かずゆき 高原 和享	湘陽かしわ台病院 院長